

四川師範大学 校内ニュース（日本語仮訳）

日本国際協力センターボランティア代表団が本校を訪問し、震災支援活動について 青年ボランティアと座談会を行う



2013年11月18日午後、「中日震災支援ボランティア交流会」が本校成龍キャンパス管理事務棟124会議室で行われた。日本国際協力センターボランティア訪中団 長山和夫団長一行15名をはじめ、中日友好協会友好都市・政治交流処 郭寧部長、四川省人民対外友好協会アジアアフリカ部 向琼花部長、四川師範大学青年団委員会 余天威副書記および上記各部門スタッフ、本校ボランティア活動代表約50名が参加した。

交流会前半では、中国側、日本側のプレゼンテーションが以下のように交互に行われた。

- ① 白雪 四川師範大学青年ボランティア総隊副隊長
学科別、テーマ別、機能別に分かれる四川師範大学のボランティア組織の概要について説明
- ② 東北大学関係者によるプレゼンテーション
東北大学東日本大震災学生ボランティア支援室 藤室玲治准教授、学生ボランティア代表奥山拓哉氏、福長悠氏、井上尚人氏が震災直後の活動を紹介
- ③ 李一凡 四川師範大学学生
芦山県仮設学校での、7日間の教育支援活動（「大きな手と小さな手と握り合い、共に中国の夢を叶おう」）の紹介
- ④ 福島大学関係者によるプレゼンテーション
災害ボランティアセンター鈴木典夫顧問、学生ボランティア代表樋山詩乃氏、尾形桃子氏、菅野勇希氏による、福島県の原子力発電所被災状況と汚染物資拡散後の活動内容、課題などの紹介
- ⑤ 徐梦晨 四川師範大学院生教育支援団長

西部貧困地域茂県での教育支援活動の紹介

交流会後半の質疑応答では、ボランティア活動の開始契機、ボランティア資源の効果的利用法や震災後のボランティア活動の状況などについて意見交換を行った。

交流会の後、記念品交換会と記念撮影を行った。余天威副書記は、本校の校訓である「重徳、博学、務実、尚美」と書いた作品と本校ボランティアたちが制作した切り紙作品を日本国際協力センター訪中団に贈呈したのに対し、長山和夫団長は、幸せと吉祥を象徴する「東京牛」等のお土産を贈った。

日本国際協力センターボランティア訪中団 長山和夫団長一行は、中国人民対外友好協会の招へいに応じて、11月14日から19日にかけて四川省を訪問した。日本国際協力センター（JICE）は1977年に設立され、日本政府と協力して「国際協力事業（技術協力等）」、「留学生関連事業」及び「国際交流事業」の3つの主な事業に携わっている。2011年7月、JICEは中日友好協会に対し資金を拠出し、日中の人的交流を進めることを目的として「JICE友好交流基金」を設立した。今回の訪中団メンバーの多くは、3.11東日本大震災の救援・震災復興に関わった経験があり、訪中団自身は「JICE友好交流基金」運用開始後実施した2回目の訪中プログラムになる。本プログラムは、四川省の地震被災地の救援・復興の実態を理解し、四川省の震災ボランティア関係者との交流を深めると同時に、両国間で効果的な災害ボランティア活動について考えることを目的とする。

本校は、今回の訪中団が訪問する唯一の中国の大学である。



東北大学東日本大震災学生ボランティア支援室 藤室玲治准教授（右）による発表



ボランティア訪中団代表の発表



本校青年団委員会 余天威副書記（右）がボランティア訪中団 長山団長（左）に

切り紙作品を贈呈



ボランティア訪中団員（左）が本校ボランティア（右）に記念品を贈呈



本校青年団委員会 余天威副書記（右前）がボランティア訪中団 長山団長（左前）に
贈呈する（四川師範大学の）校訓を説明